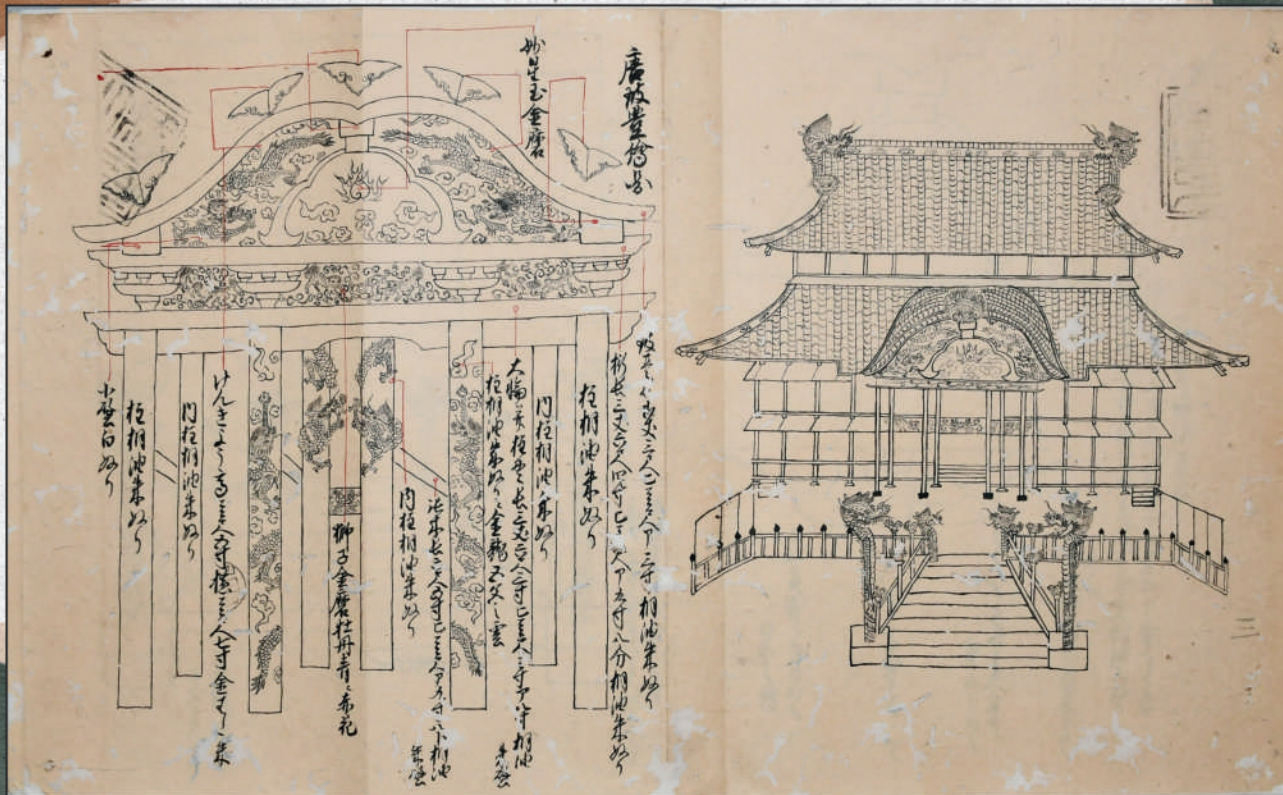




『百浦添御普請日記』那覇市歴史博物館 提供

『百浦添御普請日記』

(一八四二年～一八四六年)

を読み直す

2026.

8.15[±]

入場無料

14:00～16:00
(開場 13:30)

講師 豊見山和行 氏(琉球大学名誉教授)

会場 3階 講堂

受付 当日先着 (定員200席)

お問合せ 098 - 941-8200

主催 沖縄県立博物館・美術館

首里城は、17世紀以降、琉球国が消滅する1879年までに6回の再建・修築工事が行われました。1671年と1712年の再建は火災によるもので、1729年、1768年、1811年、1846年のものは正殿の老朽化に伴う建て直し（重修）でした。

本講演では、最後の修築（1846年）に関する史料『百浦添御普請日記』を元に、工事の経緯、関連する儀式・儀礼、落成式での大宴会、工事功労者の褒賞、与那原村の貯木場をめぐる問題などを紹介します。



【講師】豊見山 和行(とみやま かずゆき) 琉球大学名誉教授

1956年、宮古島生まれ。博士（歴史学）。専門は琉球史。琉球大学教育学部教授、同人文社会学部教授を経て、現在は琉球大学名誉教授。主な著書に『琉球王国の外交と王権』（吉川弘文館、2004年）、『「百浦添御普請日記」に見る修築工事の概要』（『国宝「琉球王国」関係資料」資料集 首里城御普請物語』那覇市、2022年）、他多数。この他、2004年に伊波普猷賞受賞。

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがあり、ご入場いただけない場合がございます。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。

